

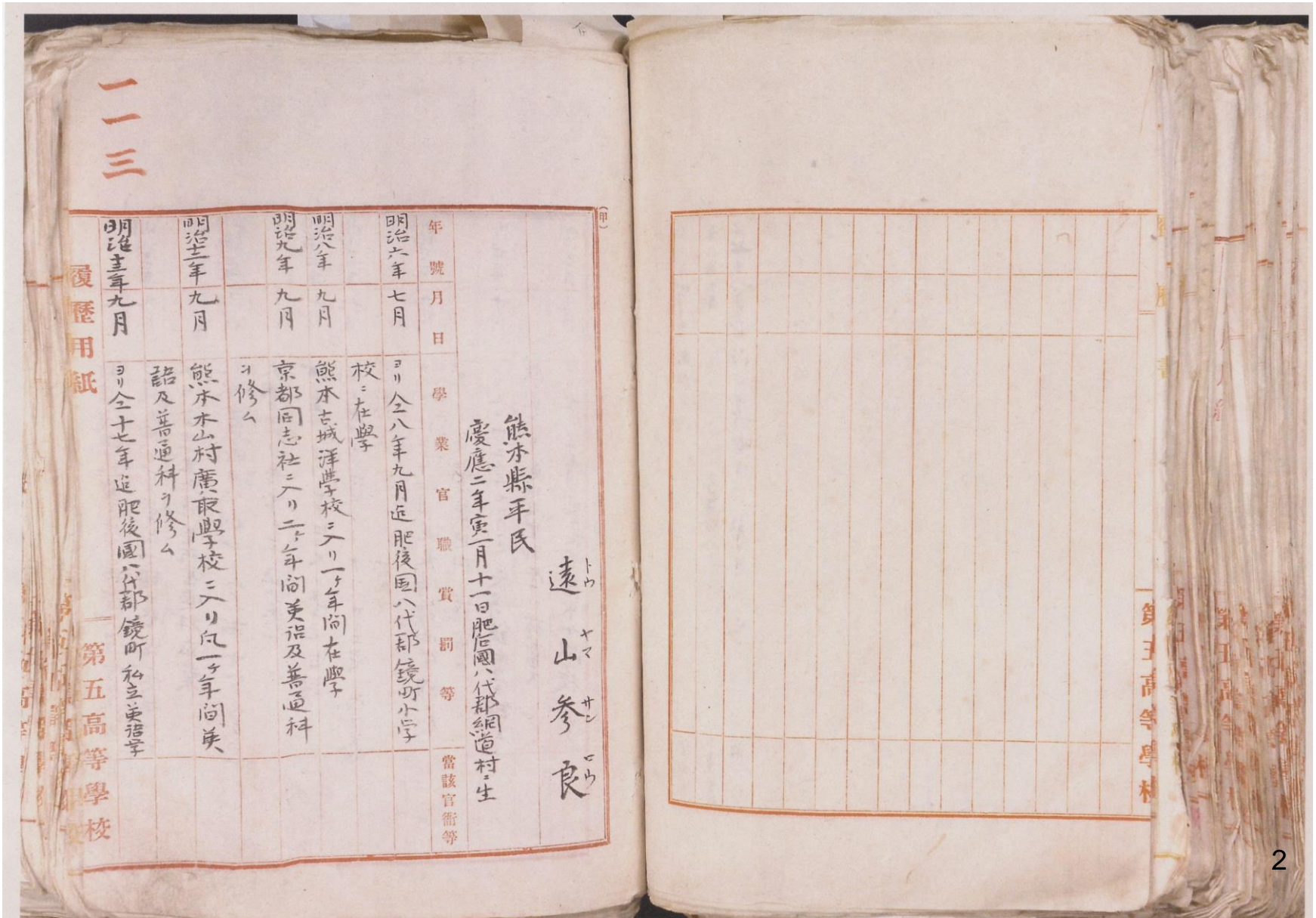
2026年度 九州学院新入生研修のための演講

初代院長遠山参良先生と創立の精神「敬天愛人」

九州学院 歴史資料・情報センター長 藤本 誠



遠山先生履歷書(熊本大学五高記念館所蔵)



一一三

履歷用紙

第五高等學校

年	月	日	學業	官職	賞罰	當該官衙等
明治六年	七月		校ニ在學			
明治八年	九月		熊本古城洋學校ニ入り一年間在學			
明治九年	九月		京都同志社ニ入り二年間英語及普通科ニ修ム			
明治十年	九月		熊本木山村廣取學校ニ入り一年間英語及普通科ヲ修ム			
明治十一年	九月		リ今十七年迄肥後國八代郡鏡所私立英語科			

熊本縣平民
 慶應二年寅月十一日肥後國八代郡網道村生

遠山 参良

第五高等學校

遠山参良(さぶろう)少年が幼少期過ごした鏡町

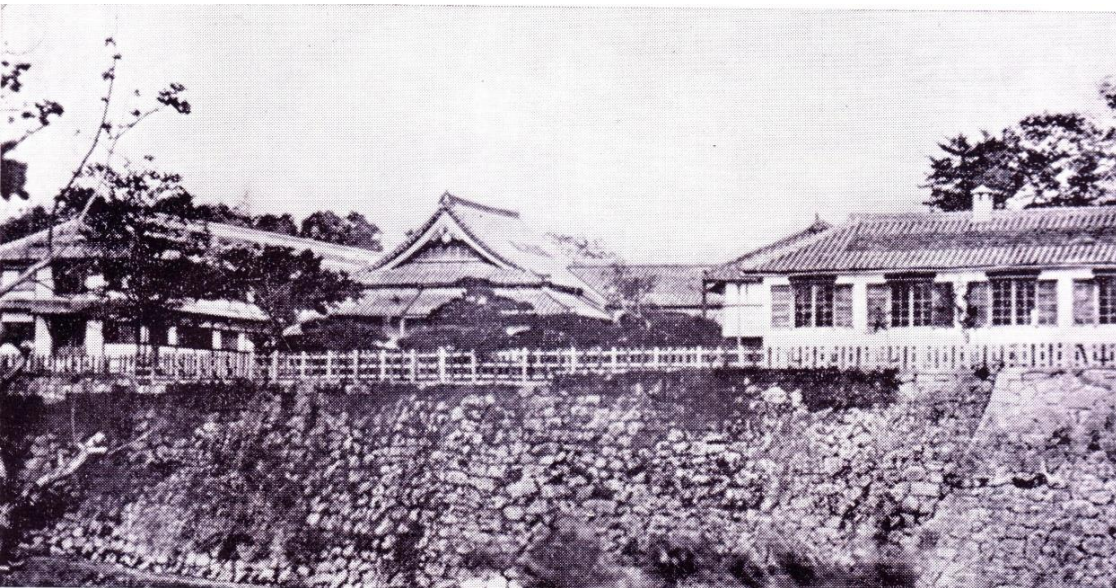
現在の鏡ヶ池と鏡小学校

印鑰(いんにやく)神社と鏡小学校



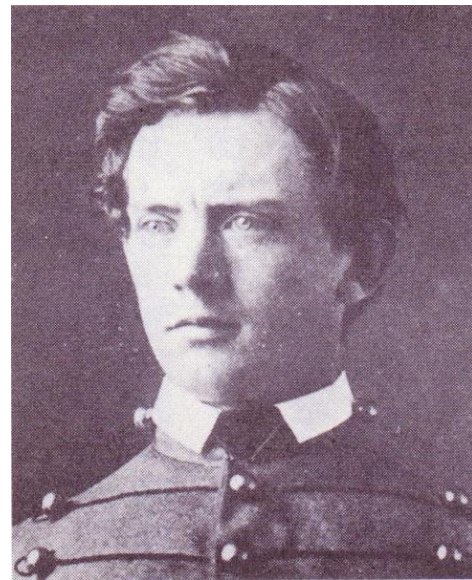
1875年(明治8年)9月:9歳

熊本洋学校(古城洋学校・第5回生)に入学・「自助の精神」を学ぶ



古城(ふるしろ:現・県立第一高校)にあった熊本洋学校と洋学校生徒たち

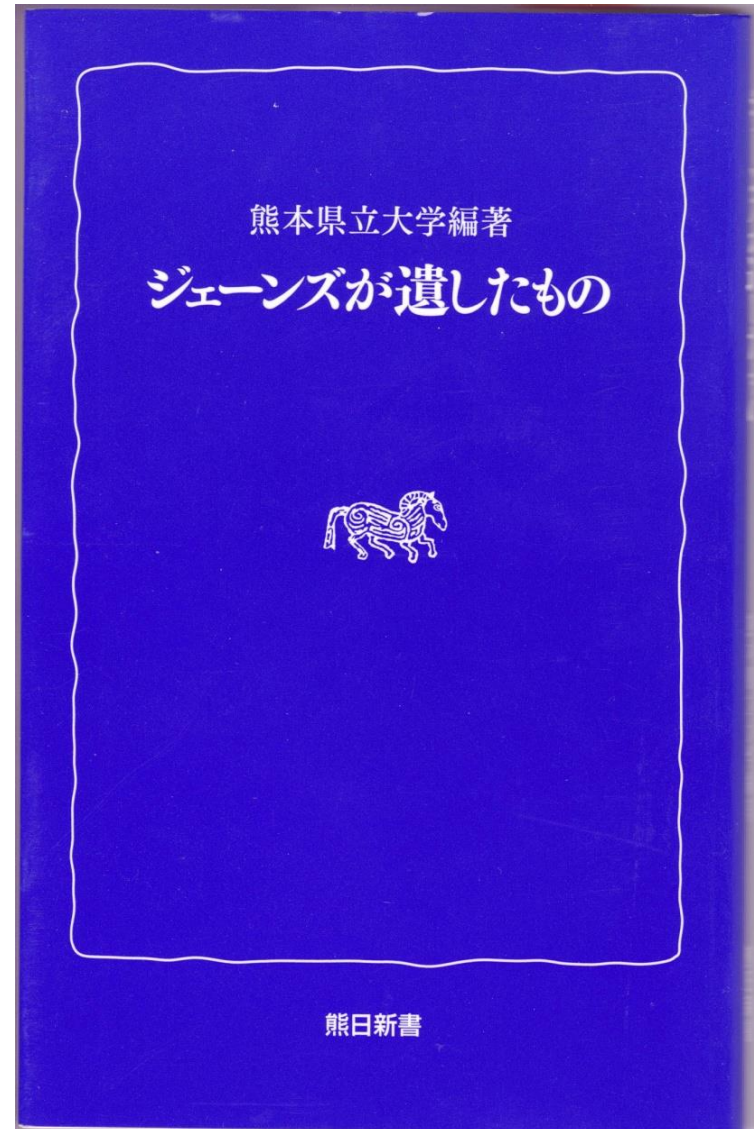
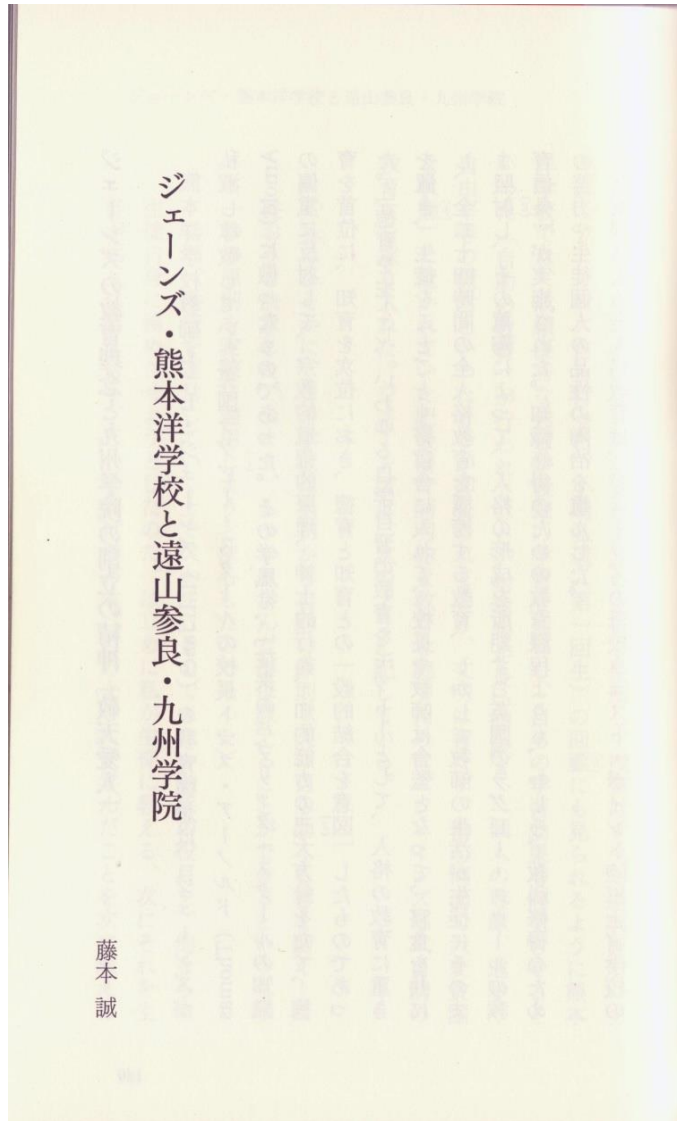
L.L.ジェーンズと ジェーンズ邸



「自助の精神」と熊本洋学校—九州学院の創立の精神

Heaven helps those who help themselves.

「天は自ら助くる者を助く」



花岡山結盟「熊本バンド」の精神を引き継ぐ九州学院

1915年(大正4年)1月30日 五高花陵会主催:奉教記念会

海老名弾正と遠山参良、五高「花陵会」学生、九州学院「黎明会」生徒



海老名弾正と
遠山参良院長
昭和3年12月8日



1876年・明治9年9月:10歳

官許「同志社英学校」入学



初期同志社

ボルネル(左端)を迎えた
新島襄(右端)と同志
社生徒たち
(明治10年10月22日写)



「熊本バンド」が同志社の 礎を築く

キリスト教に基づいた「良心」に従って生き、「良心」の中で「自由」を行使する自立した精神

新島襄・八重夫妻



デイヴィス宣教師



新島襄自筆による同志社初期 の寮の部屋割表 (明治10年3月自筆か)



初代総長・新島襄

古三浦志守(筆)

三月 新島襄

収帳

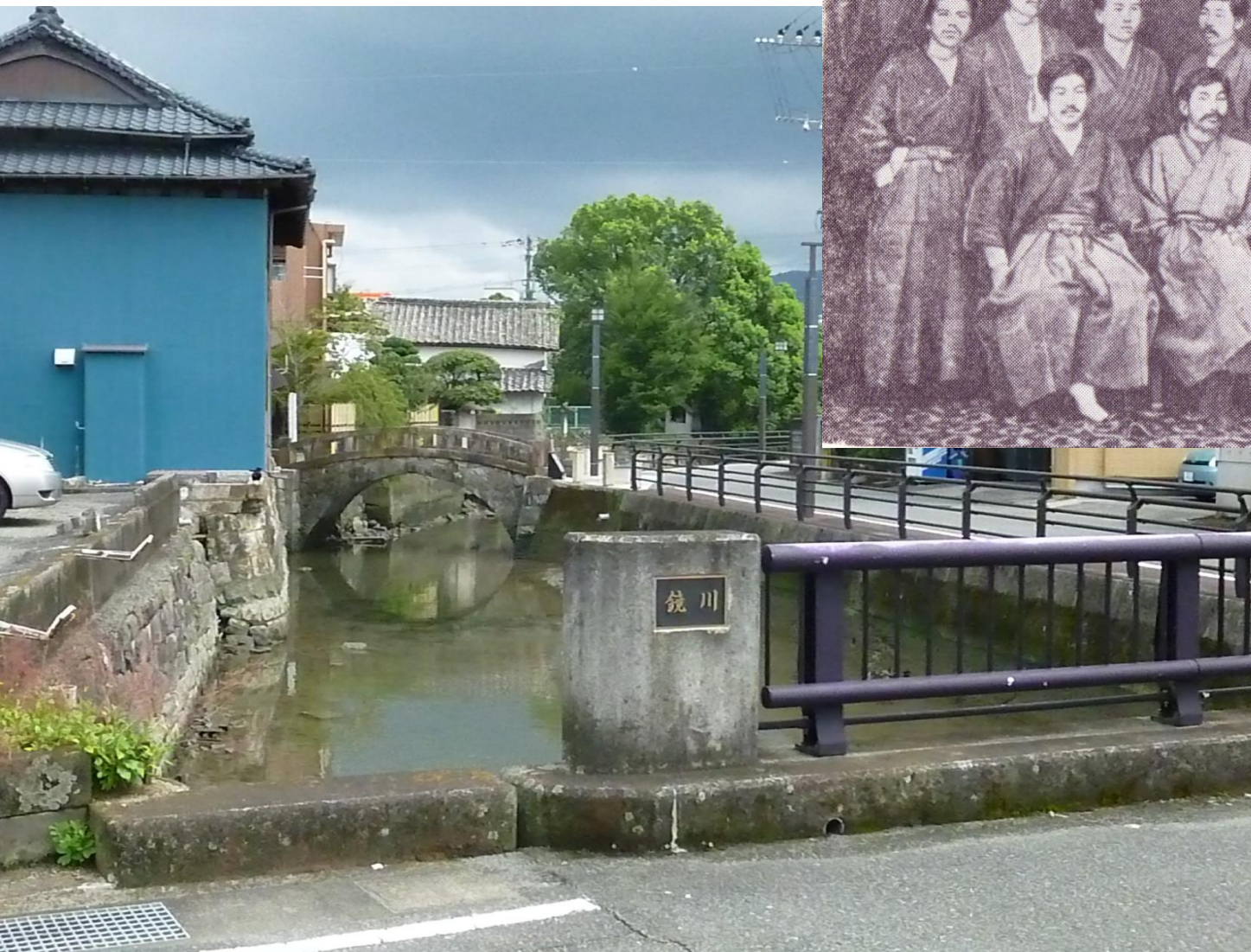
<p>新島 山吉</p> <p>高橋 河江</p> <p>木金 永松</p> <p>伊藤 加次郎</p> <p>中島 二階</p>	<p>上野 辰</p> <p>下和 秋平</p> <p>湯田 久田</p> <p>津川 根岸</p> <p>奥 大次</p> <p>源 田</p>	<p>津田 山吉</p> <p>津田 久田</p> <p>津田 山吉</p> <p>津田 久田</p> <p>津田 山吉</p> <p>津田 久田</p>
<p>不破 三郎</p> <p>大西 山泉</p> <p>村 上 昭</p> <p>加藤 五郎</p> <p>西島 三階</p>	<p>奥 大次</p> <p>源 田</p> <p>津田 山吉</p> <p>津田 久田</p> <p>津田 山吉</p> <p>津田 久田</p>	<p>津田 山吉</p> <p>津田 久田</p> <p>津田 山吉</p> <p>津田 久田</p> <p>津田 山吉</p> <p>津田 久田</p>
<p>津田 山吉</p> <p>津田 久田</p> <p>津田 山吉</p> <p>津田 久田</p> <p>津田 山吉</p> <p>津田 久田</p>	<p>津田 山吉</p> <p>津田 久田</p> <p>津田 山吉</p> <p>津田 久田</p> <p>津田 山吉</p> <p>津田 久田</p>	<p>津田 山吉</p> <p>津田 久田</p> <p>津田 山吉</p> <p>津田 久田</p> <p>津田 山吉</p> <p>津田 久田</p>

11

私立広取(こうしゅ)学校入学(1879年・明治12年:13歳)

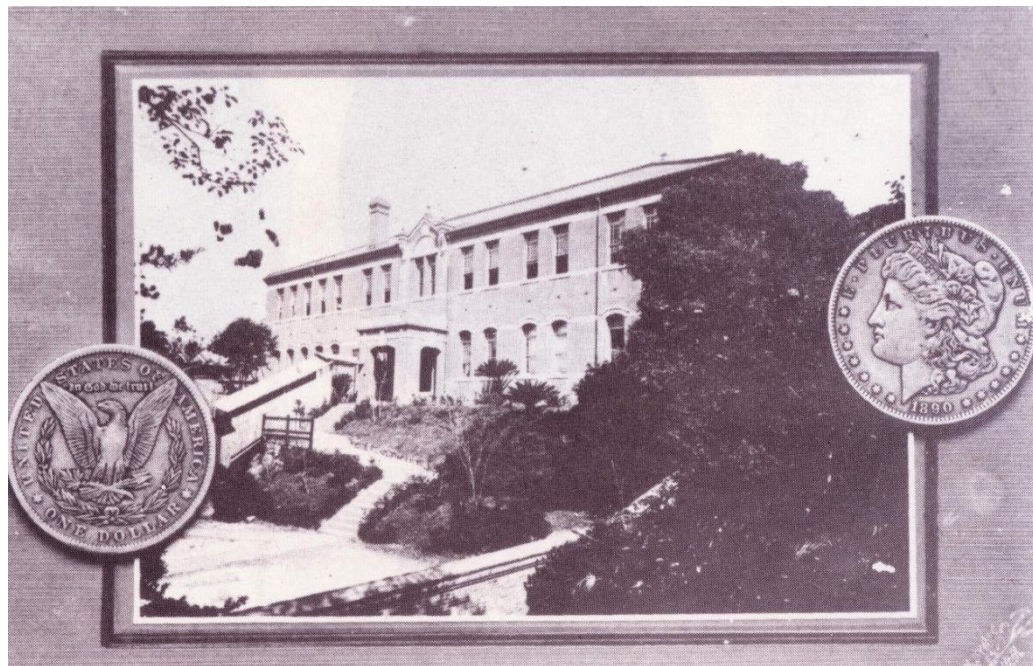
鏡英学校で学ぶ(1880年・明治13年:14歳～明治17年:18歳)

(岡田英学校)



同志社第1回卒業生
左端:岡田松生

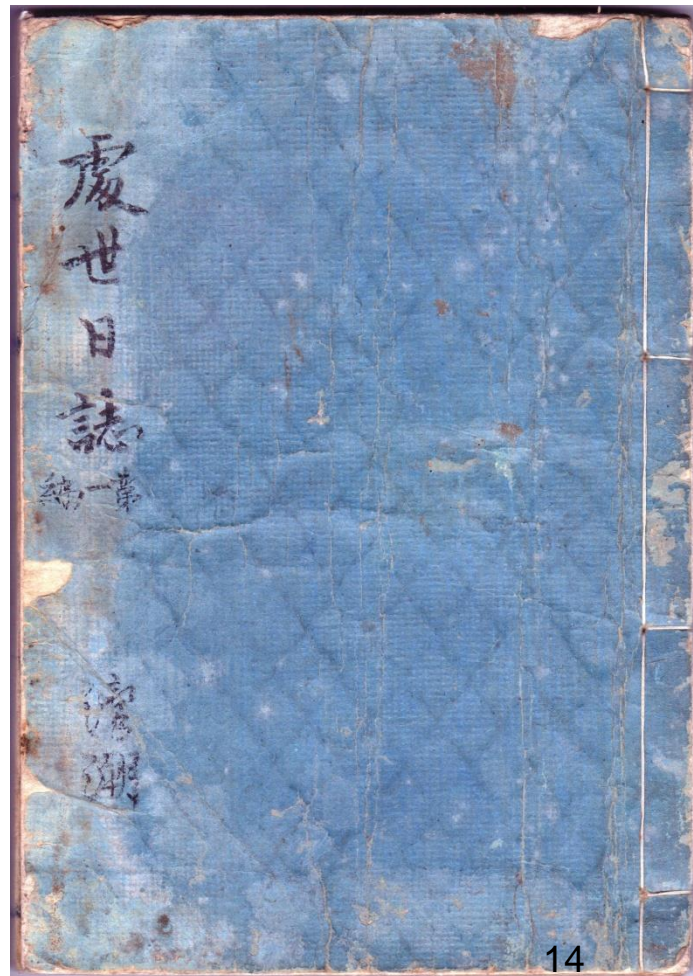
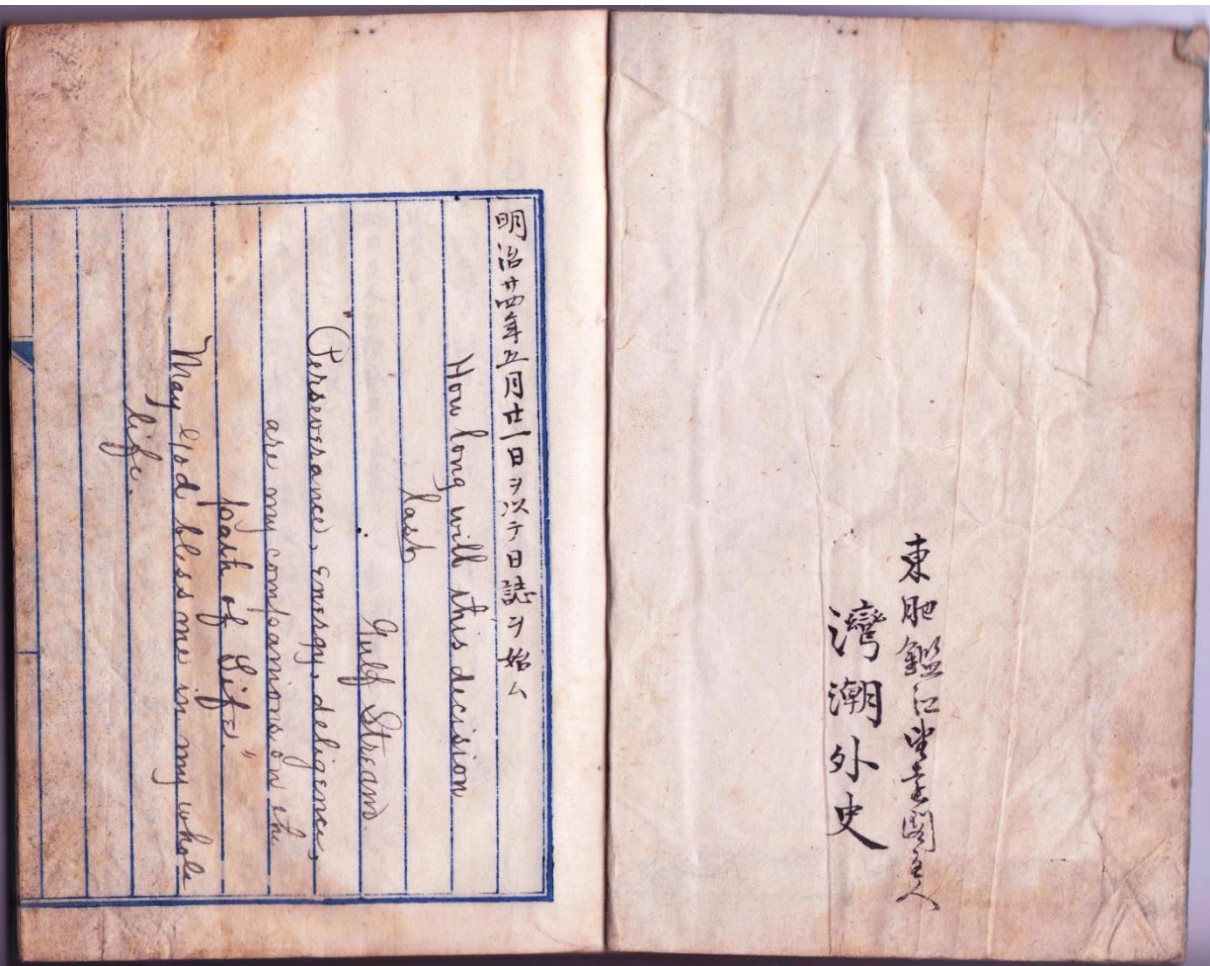
1884(明治17)年9月(18歳)
加伯利(カブリ)英和学校
入学～明治21年6月(22歳)



2ドルの米貨と鎮西学館
(長崎市大浦東山手)
カブリー夫人の2ドルの寄
付から始まった

創立者ロング先生を囲む
初代の生徒たち

1888(明治21)年9月(22歳)鎮西学館教師就任
1891(明治24)年5月(25歳)『處世日誌』の記述始まる



遠山参良先生 米国留学の頃

1892年5月～1897年9月
(26歳) (31歳)



オハイオ州デラウェア市
ウェスレアン大学



**1897(明治30)年10月(31歳)鎮西学館教師復職
1898(明治31)年9月(32歳)活水高等女学校講師嘱託**

**遠山参良・無津夫妻
長男:不羈夫**



東山手の鎮西学館寮



第五高等学校教授 遠山参良

1899(明治32)年8月
~1910(明治43)年9月



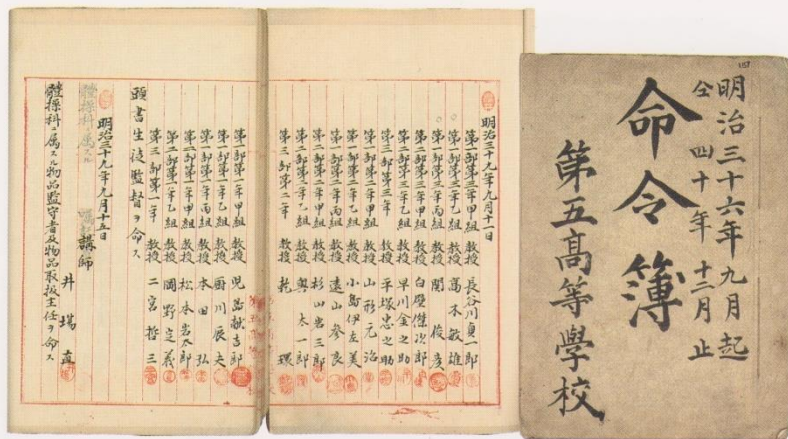
漱石が教えた赤煉瓦の旧制五高本館（国の重要文化財、現在は記念館）

明
治

の

息

吹



71
命令簿 表紙:1903(明治36)年9月~1907(明治40)年12月
頁:1906(明治39)年9月11日

Appointment book for faculty

表紙:教職員の職務関係辞令綴。 頁:生徒監督命令、生徒監督は現在の担任にあたる。
一部一年乙組監督の厨川辰夫は厨川白村のこと。



一階廊下と復元教室
朝寒の顔を描へし机かな

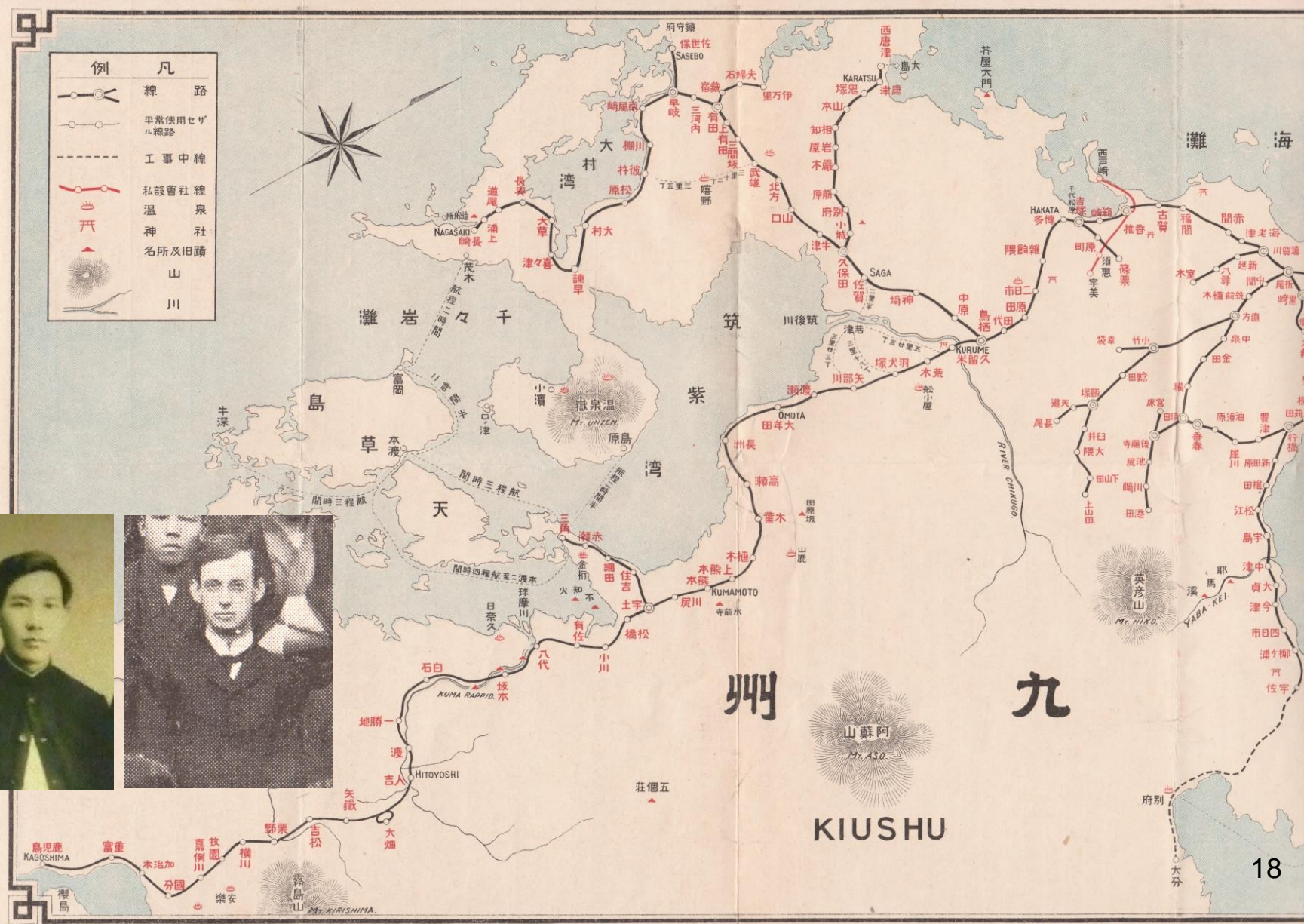
明治三十七年五月 第五高等学校
兼七、七月管校本科豫科各級入學志望者、六月廿五日限、願書
受験料(本科)金壹圓豫科金五拾錢相済差出へ九人學試験
合格者必し其前日出頭上受験日割等々命令ス
但入學試験(學科)及其程度細目花來考用書各等、別紙
本校庶務掛(申出ツヘ)

第五高等学校の生徒募集の木札

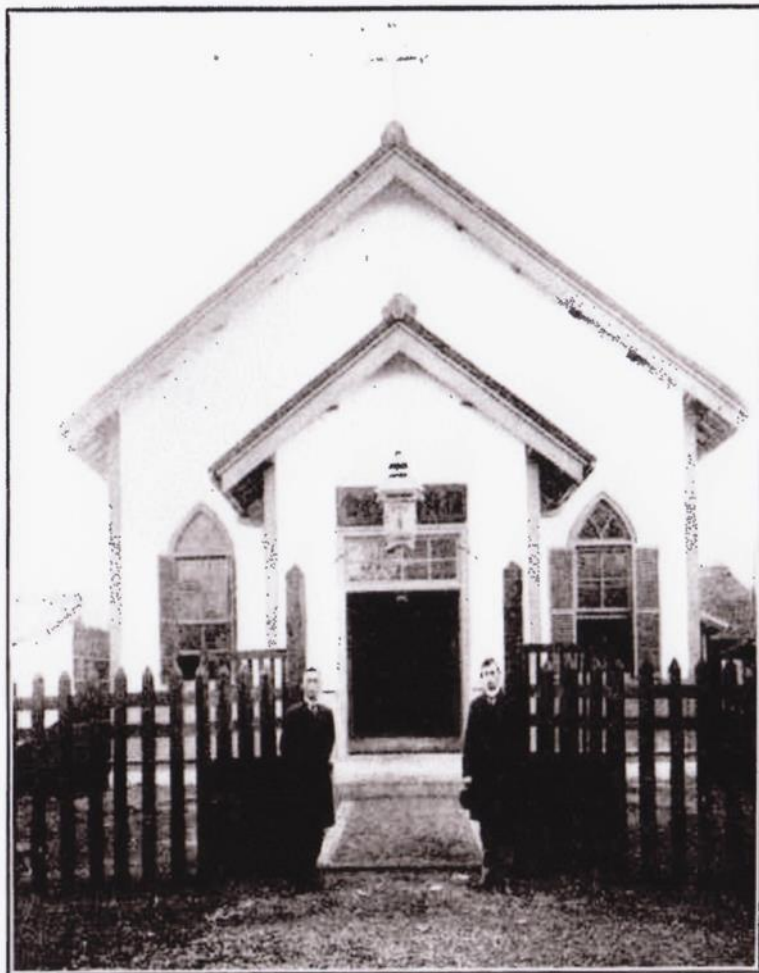


1899(明治32)年7月、遠山参良とC.L.ブラウン出会う

九州鉄道線路案内(明治43年3月30日・九州鉄道管理局営業課、遠山蔵書)



1905年6月献堂された
日本福音ルーテル熊本教会
右・ブラウン宣教師、左・山内直丸牧師



Kumamoto Chapel



伝道活動中のブラウン宣教師とブラウン・ファミリー



OUR MISSIONARIES AT KUMAMOTO, JAPAN.
Rev. and Mrs. O L. Brown and their sons, Charles Alfred and Robert Marshall Brown.

遠山参良教授と第五高等学校、夏目漱石



漱石英国留学前の送別記念写真

遠山参良



五高教員

奥太一郎

夏目漱石

1903(明治36)年、五高開校13回記念式 遠山教授、職員総代として祝詞を奉読

祝詞

本日我校創設第十三回記念日ニ
際シ茲ニ此盛式ヲ舉ク何ノ喜カ之ニ
如カン

夫レ我國維新ノ大業成リ開國進
取ノ國是定リテヨリ文武百般ノ制
度漸ク備ハリ國運日ニ進ミ國權
月ニ振ヒ今ヤ既ニ吾界列強ノ班ニ入リ
白哲人種ヲシテ獨リ文明ノ名ヲ恣ニ
スルヲ得サラシムルニ至ル洵ニ盛ナリト謂

敢テ蕪辞ヲ陳シテ祝詞トス

明治三十六年十月十日

職員総代

遠山 冬良

第五高等学校図書閲覧室

「敬天愛人」の額が掲げられている



「五高九学会」(九州学院卒業の五高生と)

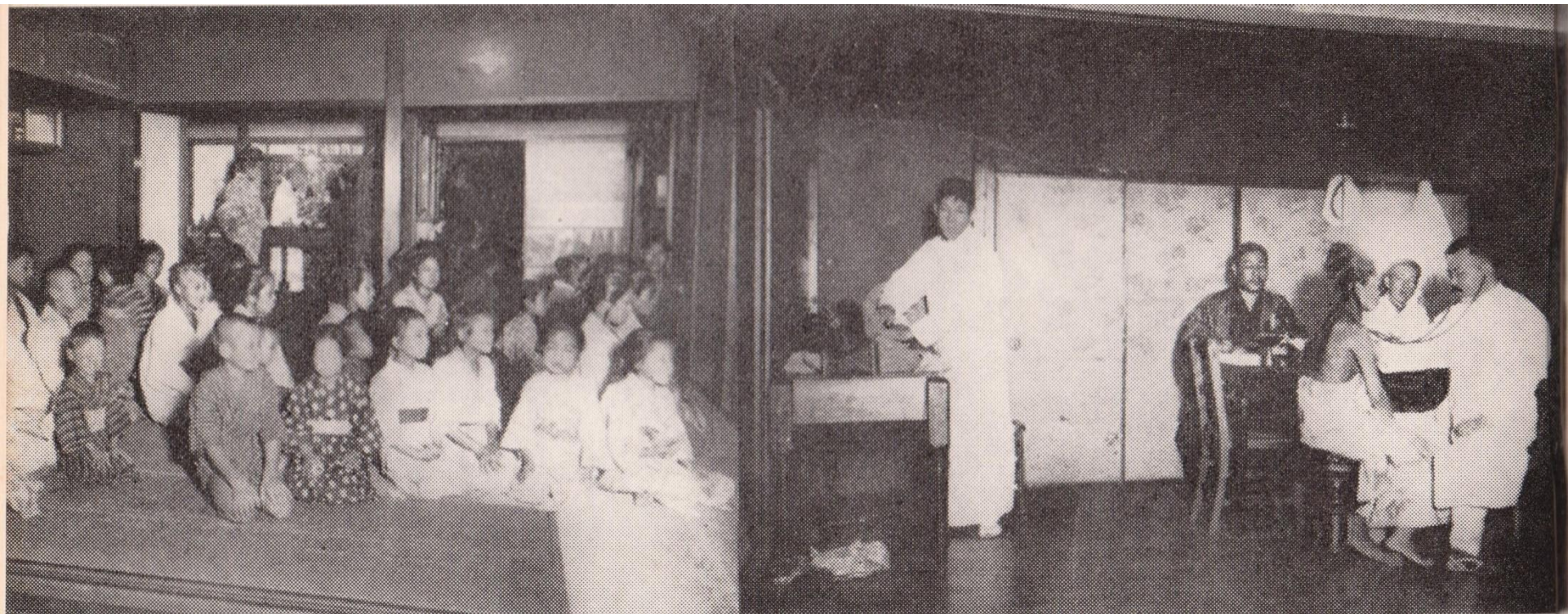


熊本メソジスト三年坂教会員の遠山先生



教会員(1910年前後)

紫苑会治療所の待合室と診療所(大正期)



医師として尽力された福田令壽先生



遠山参良先生
九州学院長就任の頃
1911(明治44)年3月



構内の院長宅(現・2号館辺り)

九州学院神学部の教師と神学生たち 1911(明治44)年 九州学院寄宿舎前で



創設期の九州学院

1912(明治45)年頃



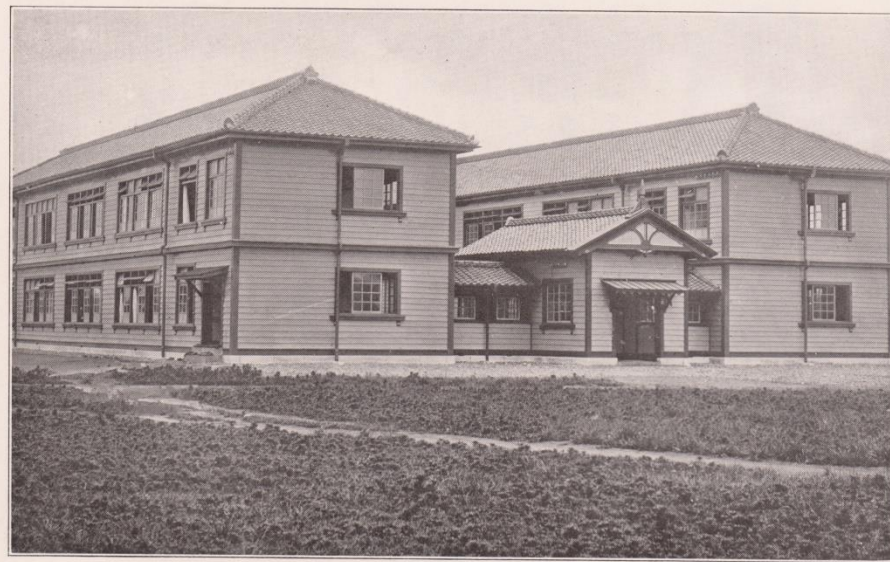
ADMINISTRATION BUILDING—Length 180 ft., width 60 ft. at ends, 30 ft. through middle.

本館(1912年4月竣工、
現・4号館、新体育館辺り)



DINING HALL—Length 66 ft., width 30 ft.

食堂



DORMITORY FOR 100 STUDENTS—Two Buildings—Length of each 126 ft., width 24 ft.

寄宿舍(現・1号館、プール辺り)

正門(現・東門)



キリスト教に基づく 全人教育の確立

学院最初のクリスマス祝会 (1911年12月22日)のプレゼント 『新約聖書』(ポケット型)



学院の教職員
院長: 遠山参良
主事: C.L. ブラウン



SECOND YEAR'S CLASS—Admitted April, 1911.
(As they look after one year in the school.)

第1期生: 2学年・122名
(1912年4月、本館前で)

九州学院宗教部発行『敬天愛人』

大正十三年二月一日發行

敬天愛人第一號



九州學院宗教部

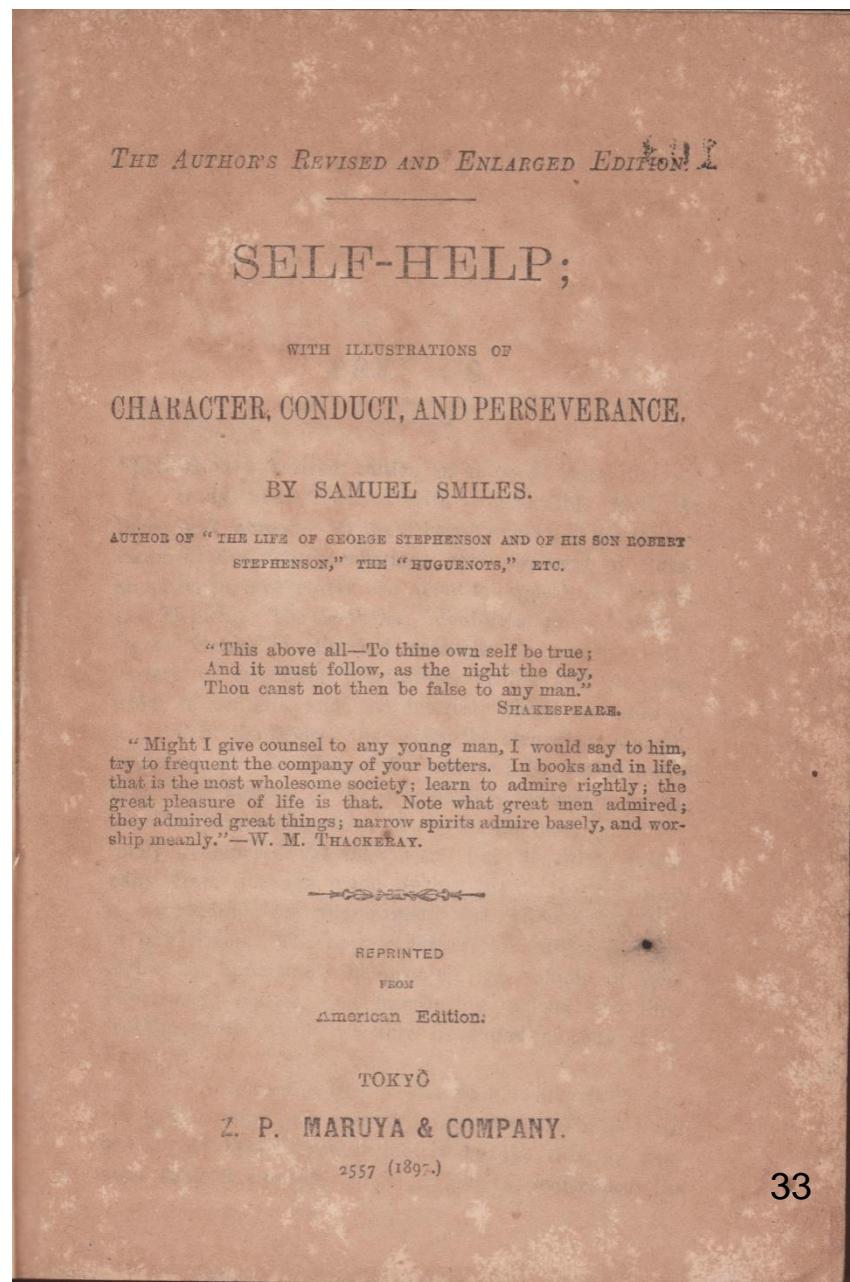
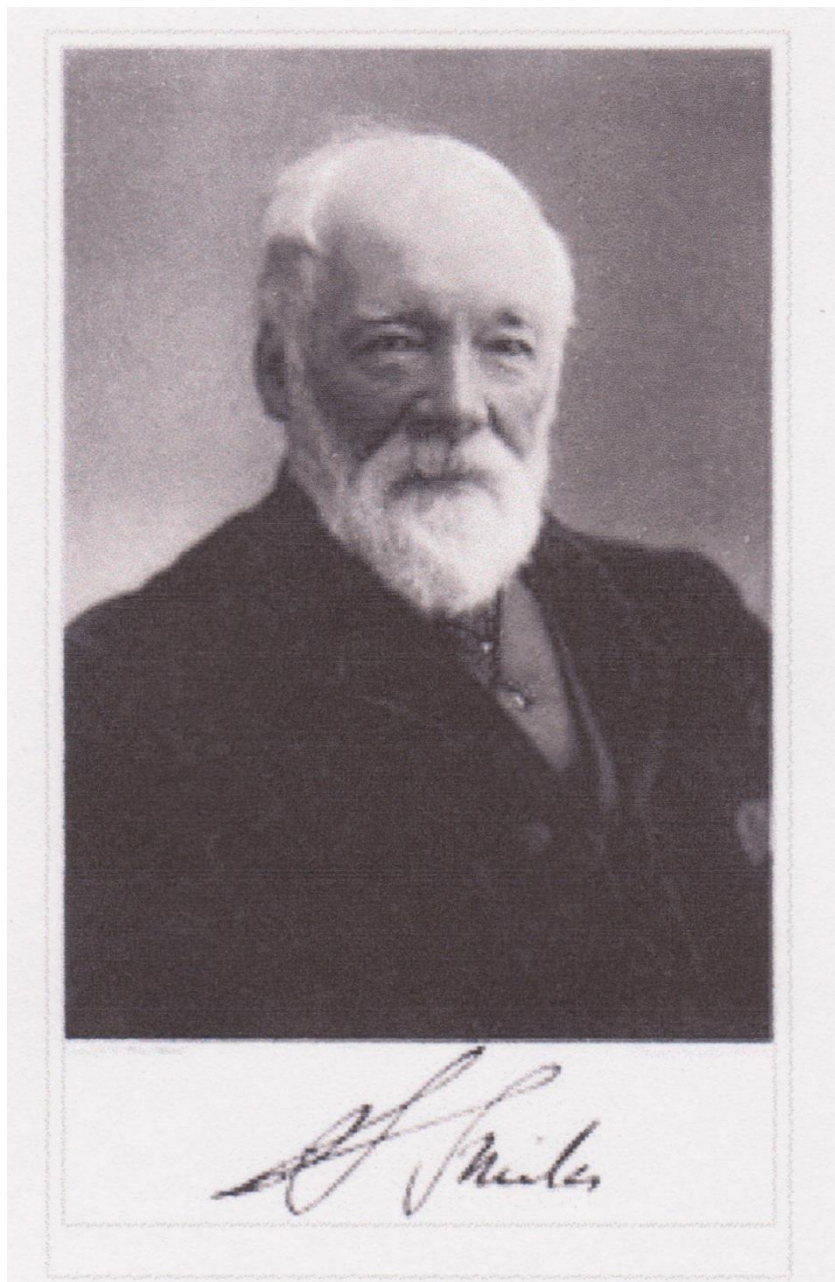
發刊に際して

わが九州學院が大江原頭に呱呱の第一聲を擧てより、歲月は流れて茲に十四年、今や内に六百の健兒を擁し、外に五百餘名の卒業生を控えて、教學の基礎漸く定まつたのである。去る者は日々に疎き世の習しも然る事乍ら、花開く晨には遠き風塵の都より故郷の櫻思ひ出で、懐郷の情をさるに學院を思ふ心もあるべく、月明の窓には乳離れし巢立して世の勤勞に赴きし教へ子に幸あれと祈る者なきにしも非ず、去りし者と残りし者との間に友愛の血が紅なるを見るのである。此血潮の脈搏が遂に顯はれて我『敬天愛人』は創刊さるゝに至つた。

我々は心からの告白として九州學院を一の家庭といはう而して教ふる者も教へらるゝ者も、將又教へられし者も皆等しく同胞であるを考へ様。『敬天愛人』は此基礎の上に創刊される故に、ひとへに友情親愛の機關である。我々は此『敬天愛人』に、瑰麗の文章、莊大の論議を期待しやうとは欲しない。眞情溢るゝ手紙を期待する。宣傳し主張する眞理の使徒よりも寧ろ共に語つて涙と笑を分つフレンドであれと希念する。

思へば國民受難の年は暮れて復活新興の曙は開かれた。若き我等の立てる所は明治維新以來嘗てなかりし程に、立ち甲斐あるの地點である。一物を持てる者は必ず爲す所あるべき、又爲す所あり得る地點である。然し新興は少數者の仕事ではない、國民全体の任務である。我々一人々々の責任である。猫も杓子も與るの覺悟あるべきであるが、いざ本當の任に當るといふ場合になると斷々乎として之ばかりは賈物でされてはならない事が分るのである。即ち敬天愛人の一義に其人格を基礎とし涵養して居る士のみ正に之をなす資格を有つ。獨り新興事業に於てのみならず、邦家は斯の如き人材を要する事今後は一層切なるべきを思はざるを得ない。我學院の院是の徹底の必要轉た急切なるを感じて、茲に宗教部は最大限の奉仕を致さん事を決心する。但し友遠方より來るさへも楽しい、況や友一齊に起つて戰ふに於ひては其愉快又とない。世にある諸君よ、院内に居る諸君よ、我々は『敬天愛人』なる我學院の標語を旗印として高い大きい志を振起して國家のため、全人類のために戦ひ吾人の尊き使命を果したいものだ。

サムエル・スマイルズ と SELF-HELP(遠山先生蔵書)



則天去私

漱石

敬天愛人

自分で自分を監督し、

役に立つ善人たれ

遠山参良

2014年度
創立者の精神
を覚える会

遠山参良先生の
ご遺影

遠山参良先生の顕彰碑





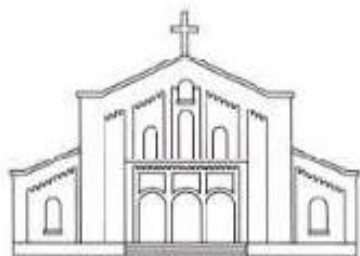
学校法人 九州学院
九州学院中学校・高等学校

Kyushu Gakuin Lutheran School

歴史資料・情報センター長

藤本 誠 Makoto Fujimoto

Tel:096-364-6134 E-mail:m.fujimoto@kyugaku.ed.jp



Kyushu Gakuin since 1911
Brown Memorial Chapel

九州学院に関する歴史資料と情報は
創立 100 周年記念
歴史資料・情報センター
100th ANNIVERSARY
ARCHIVES & INFORMATION CENTER
<http://www.kyugaku.ed.jp/aic/>



このQRコードからいつでもホームページにアクセスできます